

- ☆各地でブロック会議開催
- ☆吉田理事長永年在職表彰
- ☆ゆーす、チベット国会議員と会談

第36号 1997年12月1日

(平成7年3月17日第三種郵便物認可)

月刊

民社

発行 民社協会

編集発行人 梅澤 昇平
〒105 東京都港区西新橋1丁目20番9号
和田ビル4階
TEL (03) 3501-5111 毎月1回1日発行
購読料 年間 2,000円
(会員の購読料は会費の中に含む)

中国“覇権主義”にどう相對するか JET日本語学校校長 金 美齡

日中国交25周年。節目の年でありながら、何ともシラけている。アンケートでは「中国に親近感を持つ」人が半数を割ったそうだが、「25年たってやっと分かったのか」という思いだ。日本人はお人好しで、憲法に象徴されるように「諸国民の公正と信義」を信頼してきた。しかし世の中そんなに甘ければ戦争も起きないし問題も起きない。

今年香港返還という大きな出来事があった。多くの評論家は「自由は制限されるが、観光事業に変化はない」と予測したが、私はかねてから「香港は5年と持たない」と言い続けてきた。事実、5年どころか5ヵ月で綻びが見える。観光客は35%減、しかも最も減少したのが実は本国の中国の観光客だった。つまり香港は“英領香港”だから魅力的だったのだ。寂れた漁村を英国人が150年かけて手を入れ、そこに自由や豊かさを求め、あるいは中国に迫害されて多くの人々が流れ着き、ついには目も眩むような、東と西のあらゆるものの出会う大都会に発展した。これが中国領となれば中国人は見向きもしない。英領香港であれば中国のショー・ウィンドウとなってお金が入る。あるいは中国で動乱が起きた場合まず逃げて行ける場所となる。返還は実は中国政府にとっても中国人にとっても良いことなど何もない。それでも中国はメンツにかけてこれを取り戻した。

これが中国人のメンタリティだ。中国人が台湾に来て52年、台湾人もようやくそれが分かってきた。同時に台湾人にも中国人の人生観・価値観を持つ人が増えている。しかしそれは中国数千年の歴史に比べれば52年でしかない。私はよく中国人を「古漬け」にたとえるが、台湾人はまだ浅漬けだ。そして52年前に台湾に来た中国人も脱塩され、徐々に台湾化している。これに対し、私が日本語学校で直接中華人民共和国から来た中国人を迎えたとき、全く違う人種であることを感じた。

日本人は血縁を大切にす。それ自体悪いことではない。例えば中国残留孤児が大変な思いをしてきたから、彼らが「日本に帰りたい」と言えば国として、人間として手を差し延べるべきだ。ただし、この人たちが「50年間中国で過ごし、中国人のメンタリティを持つ」ということだけは、はっきりと認識すべきだ。私たち台湾人のように「自分が何人か」を決めねばならない人間にとって、それが自由に決められる今日の世の中は非常に幸せだ。ただこのとき、私はまず血縁の概念だけは取り除きたい。中華人民共和国はこの概念を振りかざし「台湾は歴史上中国の領土だ。黄帝の子孫だから独立は先祖に対する暴虐だ」とまで言う。私が恐れるのは、このボーダレスの時代に「古漬け」にな

った中国人が世界中を闊歩し、その臭いを移して歩くことだ。

私はこの30数年間「台湾人として生きる」選択をし、中華民国のパスポートは捨ててしまった。そして台湾における政治犯のブラックリスト解禁で、私は中華民国のパスポートを再取得し1992年から再び台湾に足を踏み入れている。私の夫ははまだパスポートなしで、「台湾共和国ができるまで無国籍を貫く」と言っている。二人の子どもは就職後、日本国籍を申請して日本国民になった。この二人は日本に生まれ日本に育った。私は常日頃から「私たち両親は、台湾が引き続き苦難の中にあるから台湾人として生きるが、あなた方は自由に選択しなさい」と言い聞かせていた。二人が日本国民を選択したのはごく自然なことだ。この結果私の家族には三つのステータスが存在することになった。

香港の人たちは、その運命を自分で決められなかった。植民地でありながら中国本土より遥かに繁栄し、自由を謳歌した。ただ彼らの間違いは、自分たちが植民地にいることを観念的に恥じ、同時に“大中華思想”なるものに憧れたことだ。したがって鄧小平とサッチャーが香港の運命を決めたとき、彼らは愕然とした。返還が近付くにつれ、その中華思想は中華人民共和国という現実として迫ってきた。同時に専門知識を持つ人、移民できる人、お金のある人たちが逃げ、いい店も腕に自信のあるシェフも流出した。こうして香港は徐々に観光地として魅力がなくなったのだ。そして返還の式典では中国語と英語のみのアナウンスしかなく、主人公であるはずの広東語は蔑ろにされたのだ。

これが中国式のやり方だ。手繰り寄せたら、あとは煮て食おうが焼いて食おうが思うまま。ビジネスにおいても同じで、今年倒産したヤオハンがいい例だ。数千年来、権謀術数を繰り広げた国柄であり、その中を生き抜いた人たちが。日本人のように真正直に、真面目に付き合えば、赤子の手をひねるも同然の扱いを受ける。たしかに中国はすごい国だが、日本がそれにどう相對するか。今台湾が第一線で中国と戦っている。日本は過去の義理からも国益のためにも台湾を断固守らねばならない。台湾が潰れたら、明日の日本の運命に関わる。日本がもし中国の属国になってしまえば、世界は中国の思いのままだ。ああいう覇権主義だけは御免蒙りたい。 10月30日 月列研究会より (要旨)



JET日本語学校校長
金 美齡